

第 368 回静岡エフエム放送番組審議会議事録

1. 日 時 令和 3 年 2 月 2 日 (火) 11:00～12:50
 2. 場 所 静岡エフエム放送本社会議室
 3. 番組聴取合評 [番組名] もにゃと朝橘
[放送日時] 令和 3 年 1 月 24 日(日)及び 1 月 31 日(日)
21:30～22:00
[出演者] 中根もにゃ(STARMARIE)、三遊亭朝橘
 4. 出席者 [委員] 委員長 木宮敬信 委員 小野晃司
委員 服部乃利子 委員 加藤裕治
[会社] 代表取締役社長 今井学
制作本部長 杉山啓充
編成事業本部長代理 安田信章
制作本部制作担当部長 寺田和史
 5. 事務局報告
 - 来年度編成の件
 - 本日の特番実施の件
 6. 番組審議
[対象番組] もにゃと朝橘
[放送日時] 令和 3 年 1 月 24 日(日)及び 1 月 31 日(日)
21:30～22:00
[出演者] 中根もにゃ(STARMARIE)、三遊亭朝橘
[番組内容] 中根もにゃが感じた疑問、違和感からの気づき。
ぬるま湯気分でお届けします。
[聴取・合評での主な意見]
- 服部委員 全体的にリラックス、優しく聴ける。伸び伸び話すもにゃを、的確にリードする朝橘。2 人とも県内出身という事で、親近感がある。トークテーマもバラエティに富んでいて、リスナーも楽しいのではないかと。

加藤委員

聴いていて少し落ち着かない。師匠がラジオ慣れしていない印象。早口で聴き取れない時がある。もにゃの話を、師匠がどう引き出すか、というのがポイントだろう。話の膨らませ方の方向性が、まだ定まっていないと感じる。トークテーマによっては、ぬるま湯というよりはシリアスな展開もあった。ファンタジックなもにゃと、リアリストな師匠の対比を強調するのも一手ではないか。師匠は引き立て役に徹しすぎていて、個性を消しているように感じた。

小野委員

2人とも声質が良い。師匠は頭の良い方、という印象。一面、トークをぶれないように意識しすぎていて不自然。噺家らしく、寄り道し、ぶれながら落ちをつければよいのではないか。また、もう少し県内に関連した話題も欲しい所だ。2人のプライベートな話は個人的には自己満足に感じる。トークの面白さから2人のプライベートを検索したくなる、というのが現代的なラジオの聴かれ方ではないか。

木宮委員長

2人とも声が良く、掛け合いも上手で耳ざわりが良い。しかし、師匠を引き立てるつもりが、結果的にもにゃが目立っている。また2人のギャップがさほどなく、世代も職種も共通点が多い。互いを活かしているのか疑問を感じる。「ぬるま湯」のはずが「グダグダ」「間延び」となり、心地よさから離れてしまっている。テーマトークで約14分は長い。場合によっては2テーマ、もしくは互いの選曲理由を2分ずつ話して、テーマトークは10分程度が良いだろう。噺家としての立ち位置をどのように取るのか、主役をどちらにつけるのか。このあたりが今後の課題だろう。トークテーマが肝で、師匠がテーマを決める回があっても良いと考える。

会社サイド

前回(第367回)ではハワイのゆったりした空気感などを高評価頂いた一方、初心者リスナーへの敷居の低さなどについてご指摘頂きました。今後の番組作りに反映させ、改善するようにいたします。

次回開催日 令和3年3月2日(火) 11:00~13:00を予定

以上

番組審議会委員長

木宮敬信